

# 酒井重喜先生のご退職によせて

経済学部長 坂 上 智 哉

酒井重喜教授は、2019年3月をもって経済学部を定年退職されました。ここに長年にわたる熊本学園大学および経済学部に対する先生のご貢献に感謝の意を表する次第です。

酒井先生は、1976年京都大学大学院経済学研究科博士課程を単位取得退学され、同年熊本商科大学（現・熊本学園大学）経済学部西洋経済史担当の講師として赴任されました。以来教育と研究に情熱を注がれるとともに、大学院経済学研究科長や経済学部長などの役職も歴任し、大学ならびに学部の発展に寄与されてきました。

酒井先生は、近代イギリス財政史を中心とするイギリス経済史の研究に一貫して取り組んでこられました。特に、『近代イギリス財政史研究』（1989年）により、1991年には京都大学より経済学博士の学位を取得されています。その後も着実に研究を進められ、その成果は『混合王政と租税国家—近代イギリス財政史研究—』（1997年）、『チャールズ一世の船舶税』（2005年）、『近世イギリスのフォレスト政策』（2013年）といった著書にまとめられています。

ところで、酒井先生の著書の中に、「歴史の中にあるものはいつも後ろ向きに前進する」という言葉があります（『混合王政と租税国家—近代イギリス財政史研究—』 p.262）。既得権益を有している者の戦いを、酒井先生独自の視点で端的に表現されたものです。この考えはご研究の随所に垣間見ることができるのですが、さらに私は、この言葉を通して先生の日々の研究のお姿が見えるように思います。

酒井先生は昨年、長年の研究生生活を振り返り、平凡な教員生活を送ってきた、とおっしゃいました。平凡な日々を過ごす、とても簡単なように思えますが、それを何十年にもわたって休むことなく続けてこられたのです。その結果として、他の追随を許さないほどの研究業績を残されました。先生の真摯な研究姿勢には、心より敬服する次第です。

最後になりましたが、酒井先生のこれまでの教育と研究へのご尽力に感謝するとともに、今後はなにとぞ健康に十分留意されて、これまで以上に活躍されることを祈念いたしまして、退職記念号によせる言葉といたします。